

第67回北海道高等学校PTA連合会大会空知大会 参加報告

北海道釧路明輝高等学校PTA会長 古俣 丈夫

6月10日、11日の2日間に渡り、滝川市で開催された第67回北海道高等学校PTA連合会大会空知大会に、菅原副会長、伊藤副会長並びに藤井校長と参加してまいりました。

大会主題「身近な人と結ぶ信頼の絆」のもと、全道から1,200人を越える方々が一堂に会し、講演や分科会を通じてPTA活動に対する理解を一層深めました。

講演並びに分科会の概要を取りまとめましたので、参考にいただければ幸いです。



1日目 講演 「めぐりあいのふしぎ」

講師 (株)アイスブレイク代表取締役

中 村 信 仁 氏



ラジオのパーソナリティでもお馴染みの中村氏が、これまでの人生における、めぐりあいや経験を通して考えてきたことなどを、分かりやすくお話しいただきました。中村氏の人柄からにじみ出る温かさや笑顔で会場は感動に包まれ、時間があっという間に過ぎました。

「自分の損得ではなくて、何かできることを他人のためにしてあげること」、「少しぐらい損をする生き方をしてみることに価値があること」、「大人が粋な生き方を子どもに見せ続けることが大切なこと」などのお話から、人としての在り方や生き方を改めて考えさせられました。とかく殺伐として、知らず知らずのうちに自分中心で生きがちな今の時代において、周囲の人への感謝の気持ちを忘れず、自分は周囲に生かされていることを認識しながら生活することの大切さを、中村氏の講演から学ぶことができました。

2日目は35の分科会が開催されました。それぞれのテーマに沿って、先進的な取組を学んだり、活動の課題を共有するなどして有意義な分科会となりました。

203分科会「生徒の進路実現に向けたPTAのサポート体制について」

会長 古俣丈夫

各校の取組の報告や現状の悩み・要望などを交換し合いながら、ディスカッションを深めました。進路実現に向け生徒や保護者、教員の三者が、いかに満足のいく内容、結果になるかが焦点となり、例えば、進路ガイダンスを一年次から年に数回、三年に進級する段階で6回ほど実施している、学校のホームページやメールを有効活用し各家庭への周知や案内を小まめに行っている、重要な書類は色分けした封筒で生徒に持たせている、などの報告がありました。また、行事や提出物の案内など、各家庭への周知を徹底してほしいとの要望もありました。さらに、進路に迷う生徒のため、卒業生からサポートしてもらっている学校では、「この時期までにこれだけはやっておいたほうがいいぞ!」「この道に進むならこの資格が必要だよ!」などと先輩達の生の声やアドバイスをきくことができ、非常に効果をあげているとのことでした。保護者や教員からの話とはまた違った感じで、生徒は真剣に聞いているようです。サポートする上で大切なことは、保護者や生徒、教員が報告・連絡・相談(ほうれんそう)を密にすることだと、改めて感じることでした分科会でした。当たり前のことなのですがね。生徒の皆さん!親ともっと会話しようね!お父さん!お母さん!子供ともっともっと会話しましょうね!



212分科会「PTAにできること～特別なことをしなくてもいい、できることから始めよう～」

副会長 菅原宏樹

学校祭などでのPTAの関わりについて意見交換しました。ある商業高校では、売り上げ計画を立て、材料、資材経費を計算し、儲けるためにはどのようにしたらよいかを考え、利益はクラス全員で分配するので、親は商売の邪魔をしないように「競合店」は出さず、お客に徹するなどといった話や、小規模校では生徒や先生、保護者全員が知り合いゆえに地域全体でのかかわりを楽しんでいるといった報告がありました。また、学校は自分の子供を育ててくれる場所であり、感謝の気持ちを込め、自分にできることはお手伝いしていること。親同士の友達も増え、先生方との距離も近く相談等もしやすくなっていること。そのことが結果として、子供の学力向上につながったり、あるいはPTAの活動経験がコミュニケーション力の向上につながるなど、親の年になっても自分自身の成長を実感していること。生徒や先生方と学校のために盛り上がっていくことはとても楽しいこと。こうした意見には皆さんが賛同されていました。



次年度は、帯広で開催されますので、皆さんも是非参加してみたいはいかがでしょうか。

215分科会「学校行事へのPTAとしての関わりについて」

副会長 伊藤智明



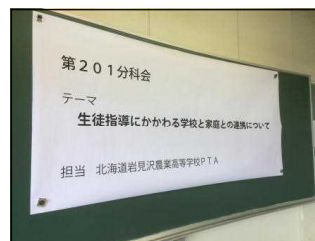
はじめに、各学校からPTAが関わる行事について発表がありました。例えば、分科会担当の滝川工業高校PTAでは、学校祭の1日目に地元企業の協力の下、全校生徒と教職員が「全校ジンギスカン」を実施しており、食育の観点からも友好な行事であることが報告されました。本校のように「餅つき」を行っているが学校もありましたが、保護者の仕事の都合でなかなか集まることができず、業者へ委託するようになったとのことでありました。また、生徒数の減少により、保護者の

数も減ってきている中で、PTA活動に対する個々の負担が増えてきているなどの問題点も出されました。こうした課題に対しては、保護者がより一層協力していく体制をつくり上げていくことが必要であり、課題解決に向けた創意工夫が大切であるとの意見で一致しました。

201分科会「生徒指導にかかわる学校と家庭の連携について」

校長 藤井一志

本分科会では、それぞれ各校の取組状況を説明したあと、いくつかの柱に沿って協議が進められました。その中で、特に共通の課題として時間を費やしたのが「スマートフォンやそれに係るSNSの正しい活用の在り方」についてでした。参加した各学校からは、生徒が正しく活用することができるよう、授業や講演会、通信等を通じて、継続的に指導していることや、家庭と十分連携しながら進めていることなどが報告されました。保護者の方からは、家庭では事あるごとに指導はしているもの



の、なかなか言うことを聞いてくれない実態もあることから、学校での指導に大いに期待しているといった声もありました。間違った使い方をする中で、犯罪に巻き込まれたり、他人を傷つけてしまうことを、あらゆる機会を捉えて粘り強く指導すること、学校と保護者がこうした課題をしっかりと共有することが大切であることなどがまとめとして出されました。